

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	石田 由美子
<b>【授業のテーマ及び到達目標】</b>			
<p>幼児期および学童期の食事の適正量および間食を与える量を理解し食生活上の問題などの対策を講じることができるようになる。また、特別な配慮を要する子どもへの対応や食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。</p>			
<b>【授業の概要】</b>			
<p>乳幼児期の栄養と食生活は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要なことを栄養および食生活面から学ぶ。また、食育の取り組みについての知識を習得し、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。</p>			
<b>【全体の授業計画・内容】</b>			
1. 幼児期の食生活の特徴			
2. 幼児期の間食の意義と食行動問題に対する対応			
3. 学童期・思春期の食生活			
4. 生涯発達と食生活			
5. 食育における養護と教育の一体性			
6. 食育の内容と計画			
7. 食育のための環境			
8. 食育を通じた家庭や地域への支援			
9. 家庭における食事と栄養			
10. 児童福祉施設における食事と栄養			
11. 障害のある子どもの食生活			
12. 疾病および体調不良の子どもへの対応			
13. 食物アレルギーのある子どもへの対応			
14. 慢性疾患のある子どもへの対応			
15. まとめ			
<b>【準備学習の内容】</b>			
予習のあり方: 次回の授業までにテキストを熟読し、受講に臨む。			
学習のあり方: 日常生活の中で、食に関する情報に関心を持ち、新しい情報を取り入れる習慣を持つ。			
復習のあり方: 疑問がある点については、自分で調べ整理することを基本とし、次回質問できるようにしておく。			
<b>【成績評価】</b>			
平常試験(60%)、提出物(20%)、授業態度(20%)			
<b>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</b>			
小テストやレポートにコメントを記入し返却する。			
<b>【テキスト】</b>			
松本峰雄 監修 『子どもの食と栄養 演習ブック』 ミネルヴァ書房			
<b>【参考文献】</b>			
小川雄二 『子どもの食と栄養演習』 建帛社 / 堤ちはる 土井正子 『子どもの食と栄養』 萌文書林			